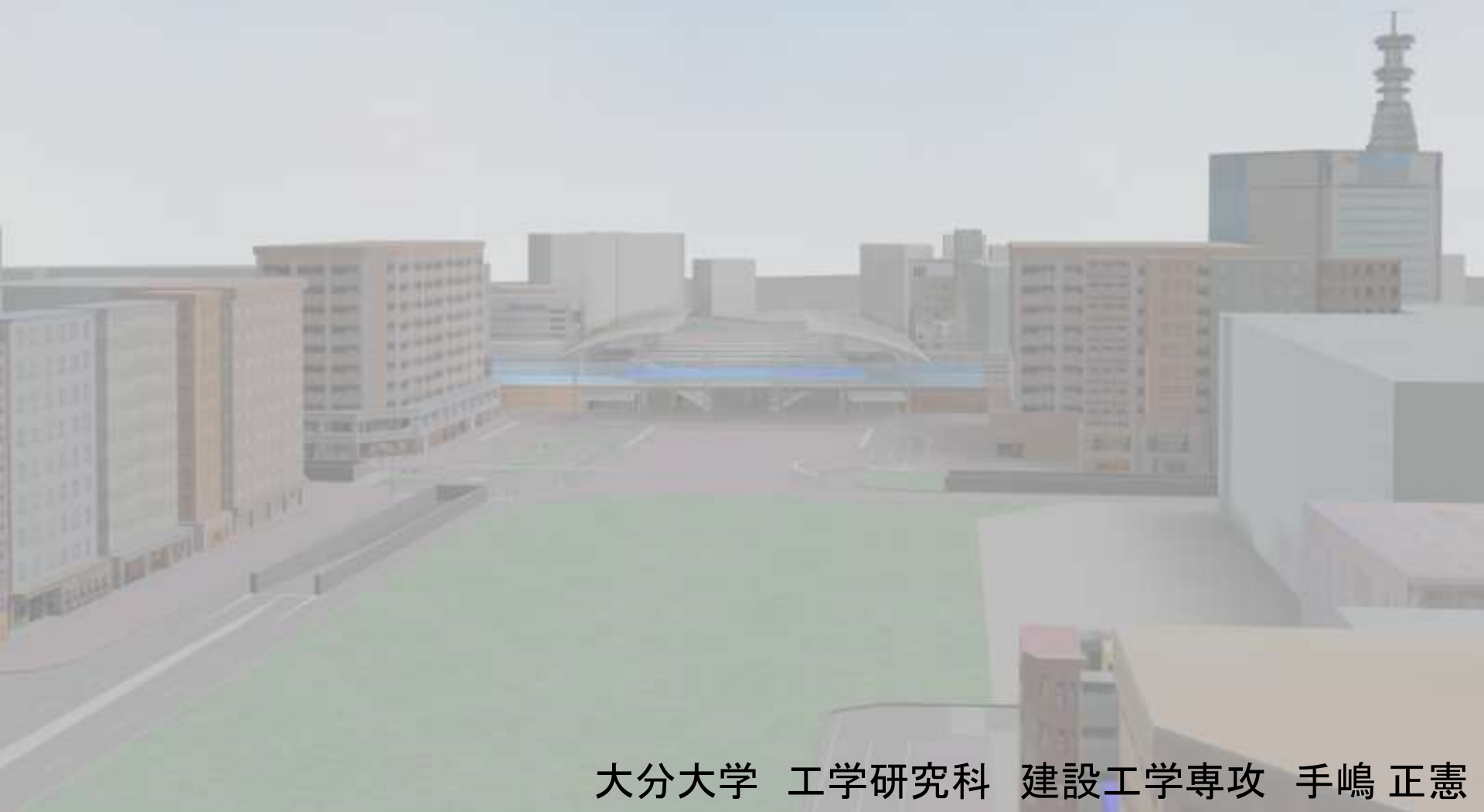
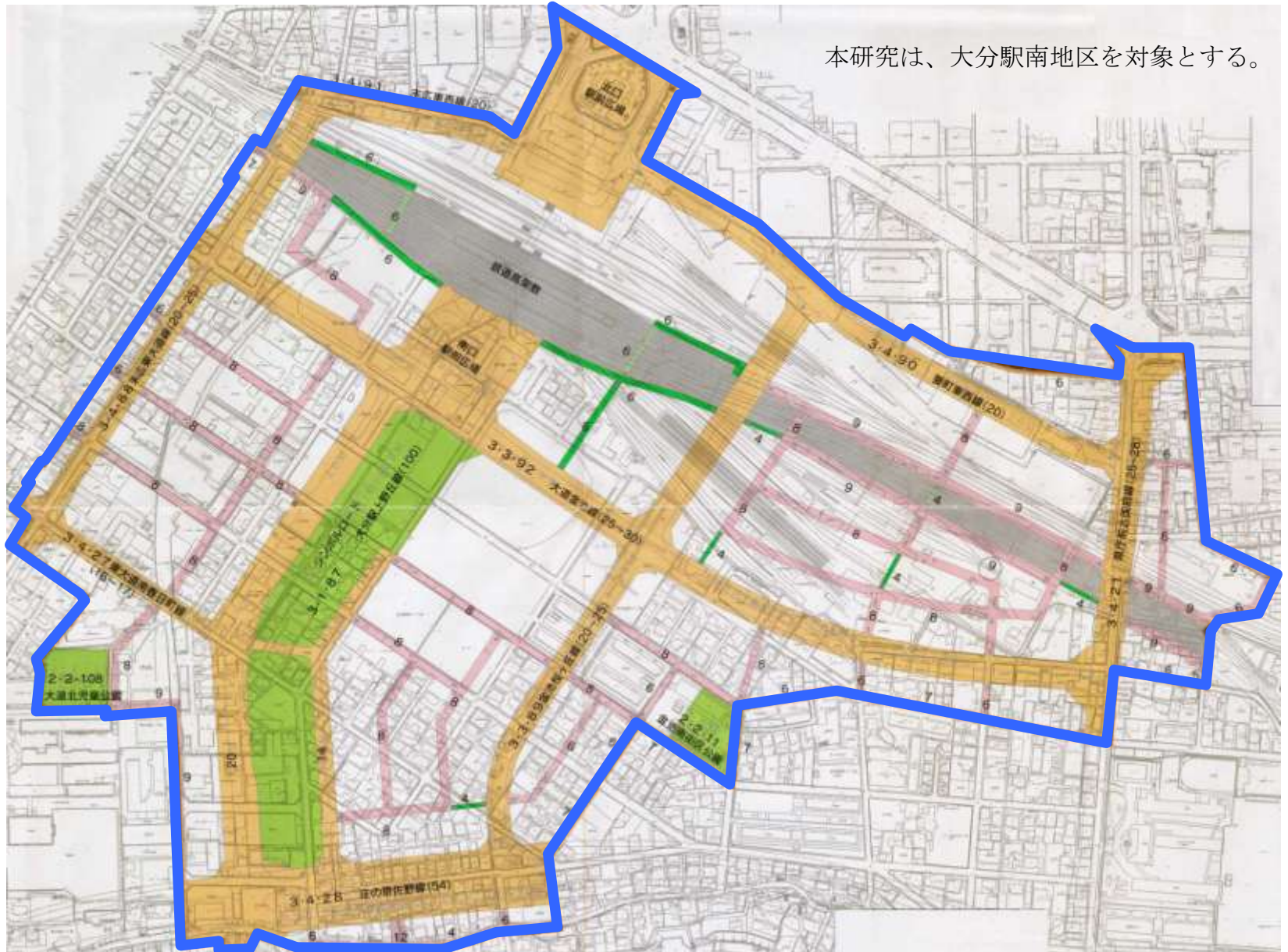


緑地景観評価システム（e-Game）の 構築と大分駅南地区への適用



対象地域

本研究は、大分駅南地区を対象とする。



背景と目的

背景

駅南地区は現在、大分県大分市で実施されている大分都市計画事業
大分駅南土地区画整理事業は、三位一体とした総合的な事業



市街地中心部に残された唯一の大規模空閑地となりこのことにより
良好な市街地環境をあわせ持つうるおいのある都市環境地区の創出

目的

- ・ 被験者が仮想空間内を自由に移動および、緑景観上重要な景観構成要素の操作が可能な景観評価システム(デザインツール)の提案
- ・ 動的な緑景観計画における共有認識把握のためのツールとなる
- ・ 今後の事業推進のための客観的知見を得る

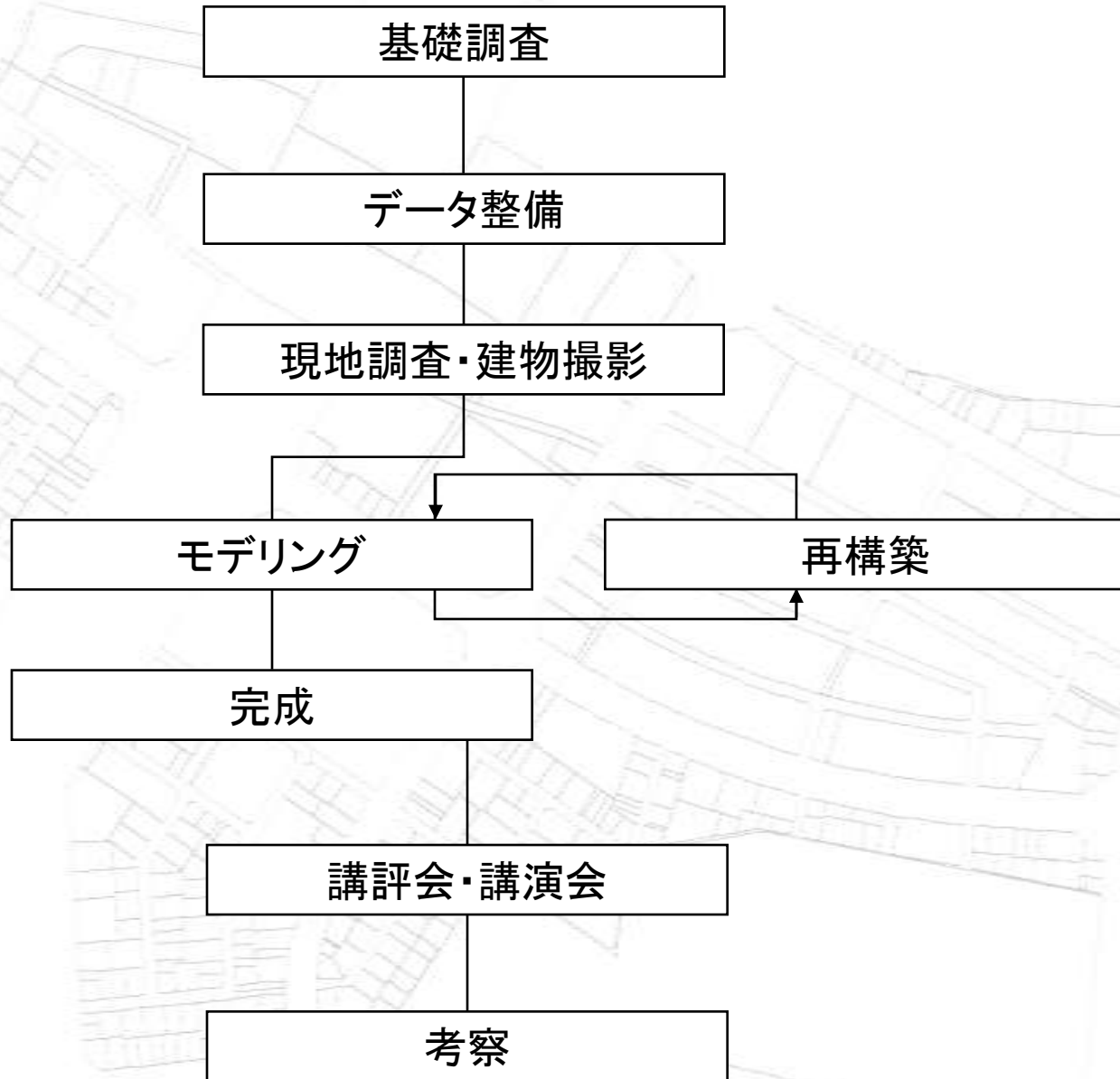
研究方法

モデリングは、コンピュータ上に建物、道路、地形などのモデルを各パターン別に作成し、各モデルにはテクスチャ画像を貼り付けることでより現実に近い仮想空間を作成する。

- ・ 快適な操作性
- ・ 軽快な動作
- ・ 高精度の表現

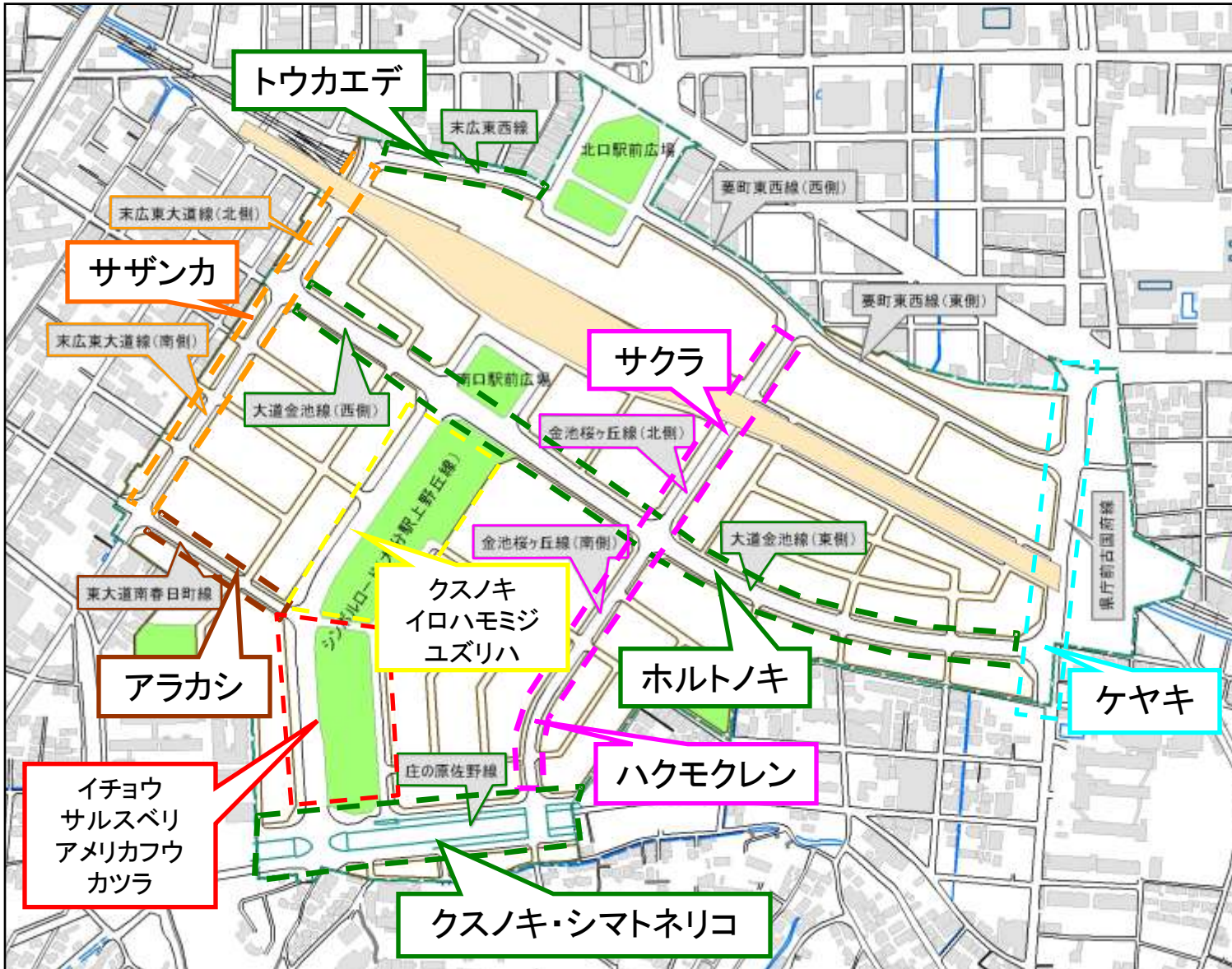
作成したデザインツールによって得られる視覚情報としての共有認識および知見は大分駅周辺総合整備事業における都市緑景観計画のためのひとつの指針となりうるのではないかと考えている。

フロー



樹木のデータ一覧

行政や市民を交えての話し合いによるWS で今回は決定した



街路樹	種類	画像
ケヤキ	落葉広葉樹	
ユズリハ	常緑広葉樹	
トウカエデ	落葉広葉樹	
ホルトノキ	常緑広葉樹	
アラカシ	常緑広葉樹	
クスノキ	常緑広葉樹	
シマトネリコ	落葉高木	
イチョウ	落葉広葉樹	
サザンカ	常緑広葉樹	
サクラ	落葉広葉樹	
ハクモクレン	落葉広葉樹	
イロハモミジ	落葉広葉樹	
サルスベリ	落葉広葉樹	
アメリカフウ	落葉広葉樹	
カツラ	落葉広葉樹	

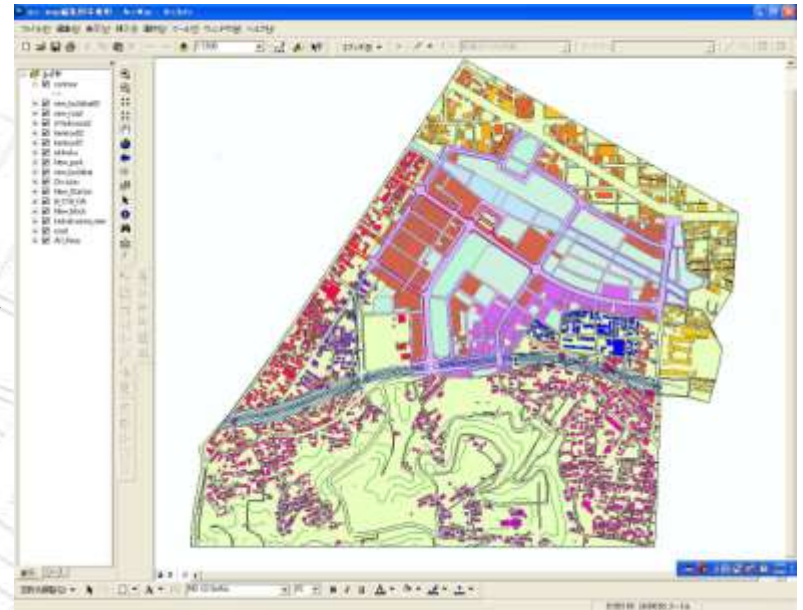
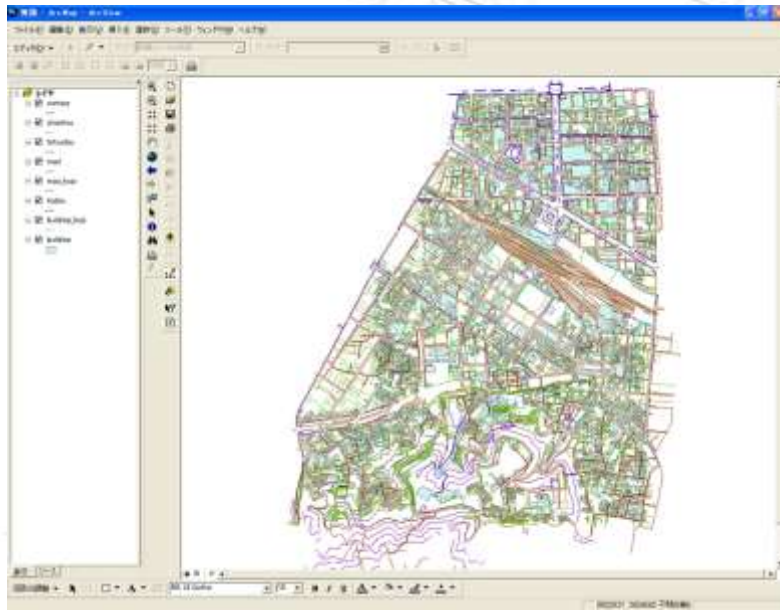
建物高さ・容積率・建蔽率

				用途指定および建蔽率/容積率					
				商業		近隣商業	第1種住居		準住居
				80/400	80/500	80/300	60/200	60/300	60/200
土地区画 整理施行 範囲内	シンボル ロード沿い	低層部(1・2 階部分)	階数	1	2	1			
			階数(m)	4	4	3.6			
		中高層部(低 層階以上)	階数	1~8	1~8	1~8			
			階数(m)	3.6	3.6	3			
	その他	建物高さ(m)	20	25	15	10	15	10	
土地区画 整理施行 範囲外	階数情報(h)があるもの		建物高さ(m)	4×h		3.6×h	3×h		
	階数情報が ないもの	規模が大きい もの	建物高さ(m)	調査して高さを決定する					
		規模が小さい もの	建物高さ(m)	12	10	5			

建物高さ・容積率・建蔽率は、
大分都市計画事業大分駅南土
地区画整理事業の事業概要に
より抜粋



ESRI Arc GIS 8.1



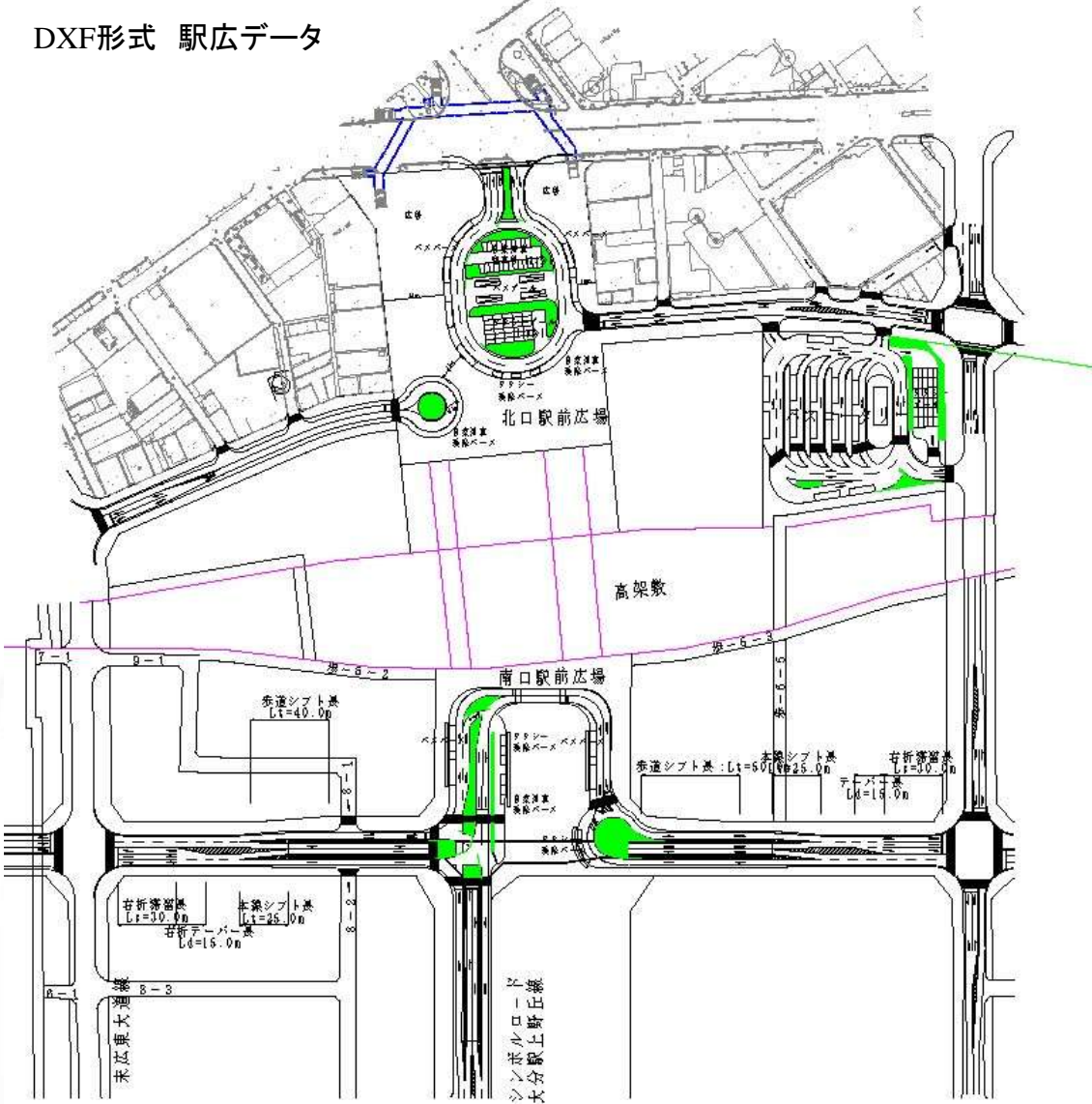
既往研究のデジタルマップデータ

本研究のデジタルマップデータ

ここでは、計画範囲外は切り取り足りない所を追加した

Auto desk 3D Studio VIZ 4

DXF形式 駅広データ



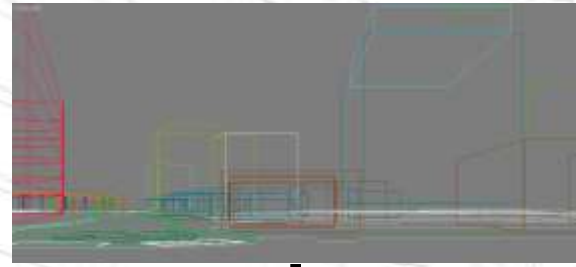
Adobe Photoshop



+

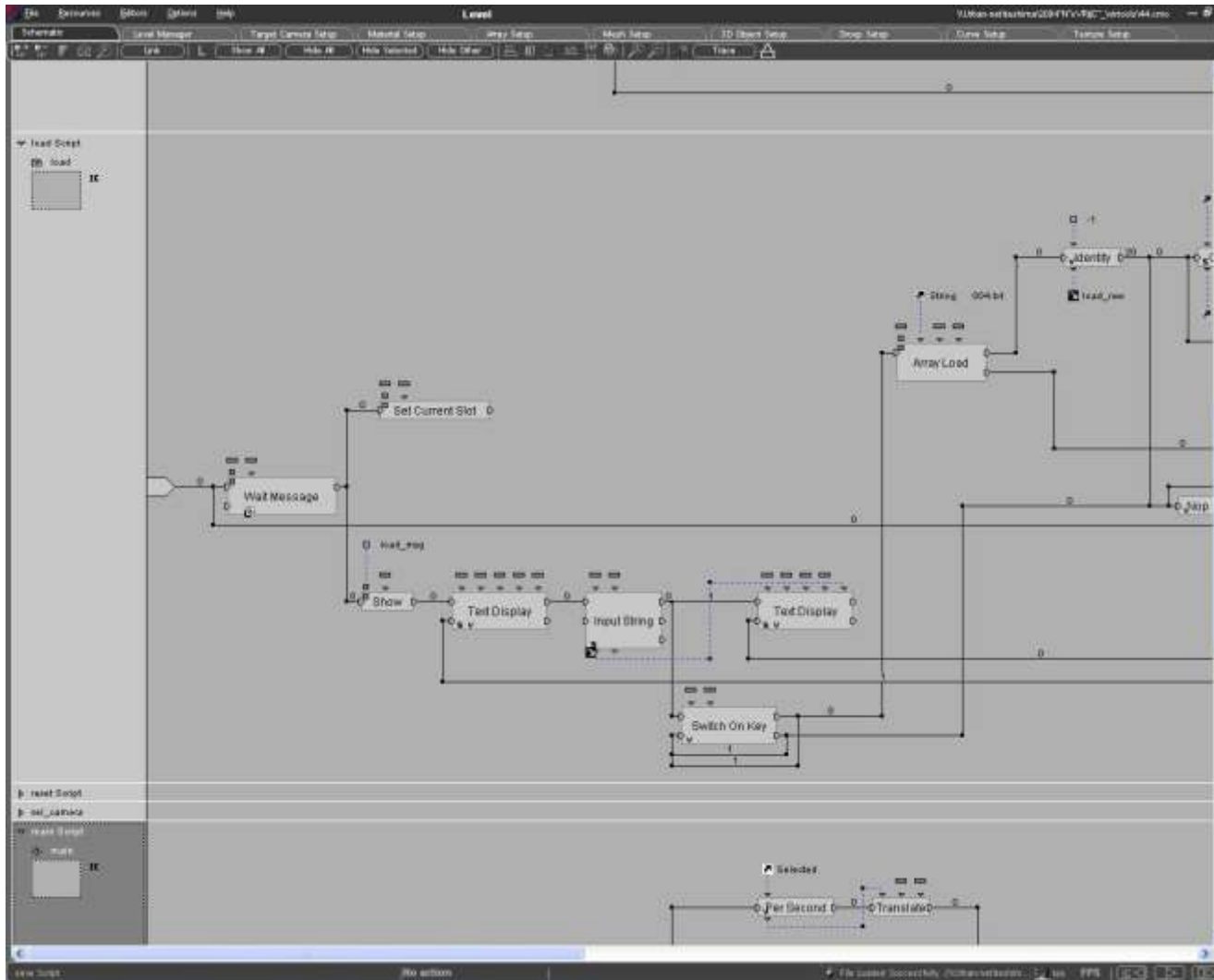


反映



Virtools Dev 2.5

VIZ4で作成したデータをVirtoolsにインポートする



樹木配置
樹木消去
保存
読み込み
リセット
建物高さ変更
メインカメラ
鳥瞰カメラ
駅舎カメラ

インターフェイス

Create web page上の画面

建物高さの調節

樹木の配置 建物高さ調節



メインカメラ
バードビューカメラ
駅舎カメラ

歩行者
自転車
自動車

読み込み
保存
リセット



有効性の検討

講評会

日時：2004/12/03 13:00～

場所：大分市総合整備課

内容：

- ・ 操作説明
- ・ 実際に数人に使用してもらう

講演会

日時：2005/02/08 19:00～

2005/02/10 19:00～

場所：大分市総合整備課2F

内容：

- ・ 操作説明
- ・ 一通り見てもらい意見を聞いた

新たな変更点を呈示してもらった



再構築

多く議題に挙げられたのは



シンボルロード
駅広
掘り込み
複合文化施設
駅ビル
駐車場問題

総括

景観の評価主体である住民は、従来のようにいくつかの代替案から案を選択するのではなく、設計行為に直接参画して意見を反映できるため、より主体的な景観計画、いたってはまちづくり支援システムとして、まちづくりを推進することができる。

今後の課題

- ・ 街区ごとに分割して作成したらより分かりやすいものになると考えられる。分割するもう一つの大きな利点は容量を落とすことが出来るということである。
- ・ 今現在の操作はキーボードによるものだがこれは、なじみにくいそこでジョイスティックで操作できるようにしたらなじむことが出来ると考えられる。
- ・ 仮想で作られている所は、用途に応じて変化できるようにしなければならないと考えられる。